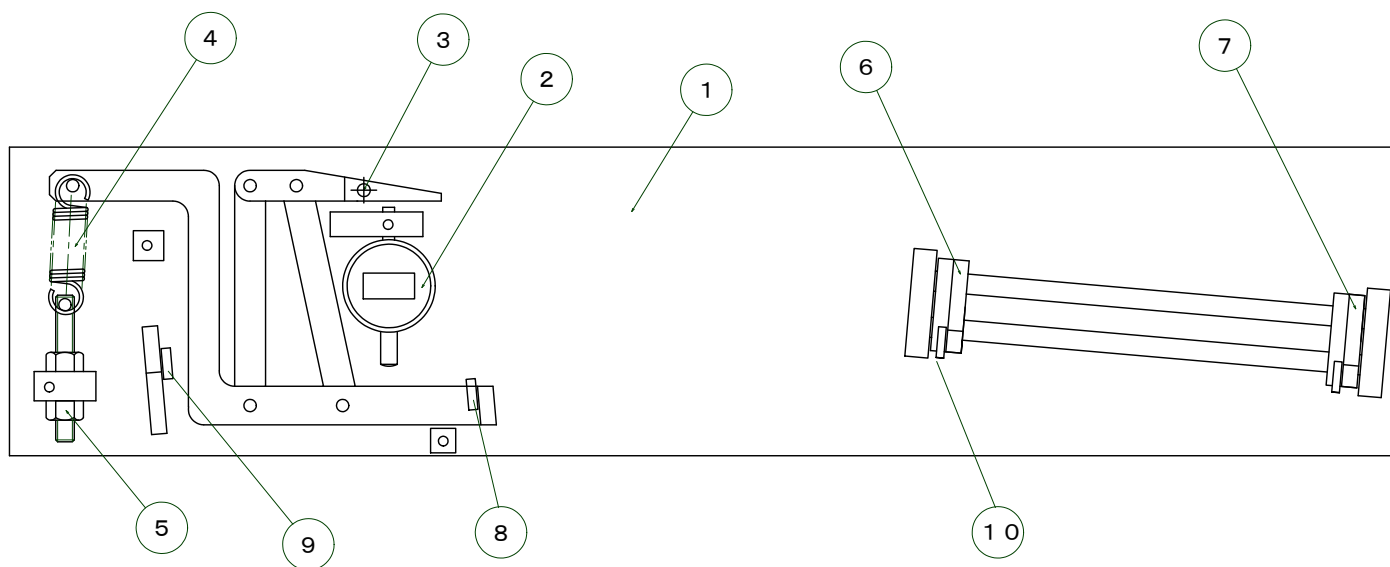
フレックス チェッカー

ＦＣ－２００Ｓ

取扱説明書

このたびは フレックスチェッカーをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

① プレート	⑤ スプリング調整ナット	⑨ グリップ側支点ローラー
② デジタルカウンターゲージ	⑥ アイアン測定位置	⑩ 移動支点ローラー
③ カウンター微調整ネジ	⑦ ウッド測定位置	
④ ベンディング調整スプリング	⑧ 加圧ローラー	

各部名称参照図

１　準備前の確認

開封後、下記の付属品が揃っているか確認してください。

１　本体・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　カバー・・・・・・・・・・・・・・・・１
３　本説明書・・・・・・・・・・・・・・・１
４　デジタルインジゲータ取扱説明書・・１
５　本体取付金具・・・・・・・・・・・・２
６　当たりバーセット・・・・・・・・・・１
７　取り付けビス・・・・・・・・・・・・８
８　５．０ミリレンチ・・・・・・・・・・１

２　作業前の準備

①　カバーの取り付け・・・

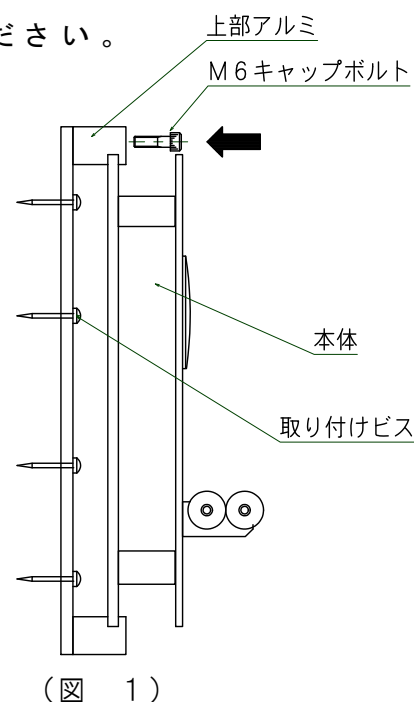
（図２）を参照の上、カバーを取り付けてください。

②　すえ付け準備・・・

本チェッカーは壁掛け式になっております。
安定した壁に取り付けた後ご使用ください。
本体の左右が水平になるよう取付けてください。
すえ付けは、（図１）参照の上、付属の
本体取付金具で確実に固定してください。

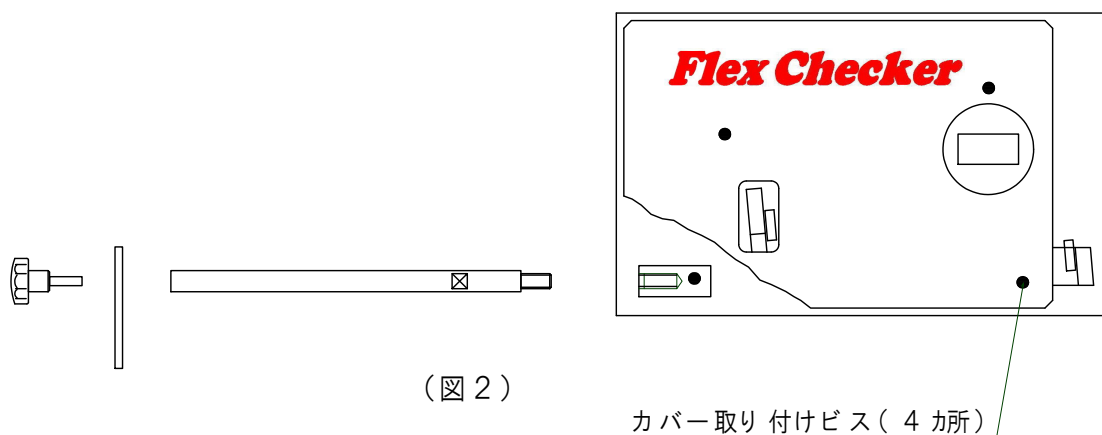
③　すえ付方法・・・

付属の取付金具を壁の安定した場所に、
５００ミリ～８００ミリの間で平行に
取り付けます。上部アルミ金具をはず
し、下部アルミ部の溝に本体下部をは
め込みます。本体上部に上部アルミの溝
をはめ込みＭ６ボルトでしっかりと確実
に固定してください。（図１）参照

（図　１）

④　当たり取付・・・

付属の当たりバーセットを（図２）参照の上、

本体、左端部のネジ穴にセットします。

（図２）

３　基本操作編

①　ＯＮ／ＯＦＦボタンを押し、デジタルを表示してください。

フレックスチェッカーの操作は、極簡単になっております。

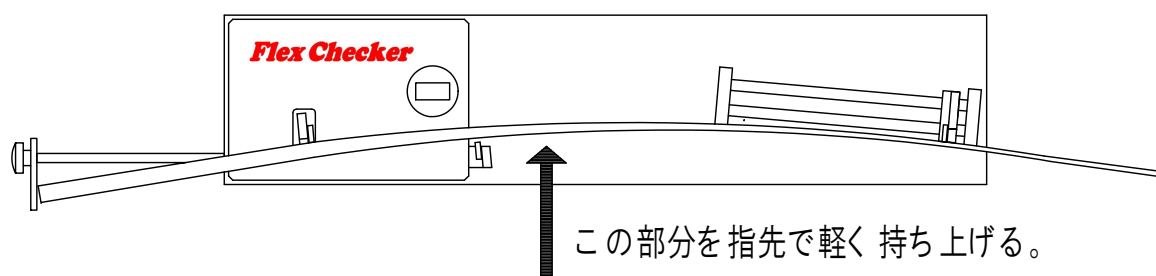
②　シャフトバット側が当たりに軽く触れるよう（図３）参照の上

本体に取り付けます。ウッドの場合は移動支点ローラーを右に、

アイアンの場合は移動支点ローラーを左に移動させます。

③　測定誤差を最小限に抑えるために、シャフトの中心部分を指先で軽く下から突き上げて、デジタル表示を確認してください。

④　シャフトが柔らかければ小の数値、硬ければ大の数値になります。

（表１）を参考にフレックス測定をしてください。

（図３）

４　　応用操作編

アルク　フレックスチェッカーは既存のクラブの測定が出来ます。
クラブ製作の際、バット側を１インチ～２インチ程のカットが
一般的です。グリップを取り付けたままの測定は、その位置関係
により多少、数値が異なります。そのためスプーン・バフィー・
クリークの測定には慎重に注意深く測定してください。シャフト
交換時の既存のクラブと、新しいシャフトとのフレックス比較は
同じ条件で測定してください。
尚、下記（表１）に記載してある数値は、アルクで測定した値です。
（表１）を参考の上、ユーザー独自の表を製作していただきます。
参考までに、ウッドのアルク測定結果で、バット側（１インチ）
移動すると約0.5、移動支点ローラーを（１インチ）移動する毎に
約0.3数値が変化します。

	L	A	R	SR	S	SX	X	XX
アルク測定値	３．５	４．５	５．５	６．０	６．５	７．５	８．５	９．５
ユーザー測定値								

（表１）

5　偏肉度検査

アルク　フレックスチェッカーはシャフトの偏肉度検査が出来ます。シャフトを本体にセットし、チップ先端を指先で回転させます。シャフトの一番柔らかい位置で回転が止まります。値をデジタルで表示する場合は測定誤差を最小限に抑えるために、シャフトの中心部を指先で軽く突き上げて、デジタル表示を確認してください。

6　使用上の注意

アルク　フレックスチェッカーはシャフトに傷が付きにくいよう、樹脂ベアリングを使用しています。しかしローラー部には大きな荷重が加わり、そのためシャフト塗装部に変色が見られることがあります。特に艶消しシャフトには十分注意し必要以上には回転させないようしてください。

7　電池交換方法

電池交換方法は別紙のデジタルインジゲーター取扱説明書を参照してください。